

熊野の
本林から



熊野古道「大日越え」の脇道に祭られた金毘羅神社。山中には古道マップなどに記載されることなく、ひっそりと祭られた祠がたくさんある。お地藏さんのことも、お宮さんのこともある。(写真提供:Kabuさん)

怪野の熊

「本宮町の怪異(其の六)」



和歌山大学
システム工学部
環境システム学科
中島敦司教授

これまで、本宮の怪異として5回も書いてしまっ
た。しかし、本宮にはまだ書き切れないほど、たく
さんの怪異話がある。まず、本コラムでも度々紹介
してきた「ダル」の話がある。山中で行き倒れた人の
靈魂のようなもの
のだという。大
人の場合はダ
ルに、子どもの
場合はゴダマに
なるという話も
ある。その場に
お地藏さんな
どを祭って供養
すれば出なく

なるという。山中
で急激な空腹感
を感じたら、ダル
につかれた証拠。
急いで対処しな
いと危険だ。症
状が重い場合は
自分も行き倒れ
て動けなくなつて
しまう。ダルにつ
かれた場合は、
何かを食べるとよい。食べ物を持っていない場合は、
手のひらに「米」と書いて、飲み込めばよい。かの南
方熊楠も、ご自身がダルに取りつかれた経験を記
している。地元では、今でもダルに遭遇した経験を記
語ってくれる人がいる。そのせいか、山中にはさまざ
まな祠が置かれている。お地藏さんのこともあり、
お宮さんのこともある。
地元のお年寄りから聞いた話だが、氏が若い頃、
古道の茶屋跡で若い女が手招きしているのに遭
遇する。従つて後をついていったら、足がなかったとい
う。たくさんの人が「見たようで、お坊さんに祈と
うしてもらい、その後は女を見ることはなくなった
という。山中の女の怪異話として、果無に出たとい



音無川の源流に鎮座する船玉神社と本宮大社(旧社の大斎原)の間を精霊のような「みよろの星」が空中を浮遊しながら月に1回行き来するという。

う「肉吸い」は恐ろしい妖怪だ。茶屋跡の女とは別
物のようだが、肉吸いは「ほおほお」と不気味な声を
だして向こうから近づいてくる。(あんどんの)火を
貸せ、と言う。若い女だと思つて油断すると、捕
まつてしまい、肉を吸われてしまう。熊野には殺し
をする妖怪は少ないが、肉吸いは熊野最凶妖怪の
一つだろう。
三越(みこし)の辺りには、「みよろの星」という、精
霊のようなキレイな星が空中を浮遊するという。月
に1回、音無川の源流に鎮座する船玉神社と本宮
大社(旧社の大斎原)の間を行き来するという。この
ため、「みよろの星」が行き来する音無川は常に清
浄しておかなければならない。小便などをしては
ならない。船玉神社は本宮大社の奥の院にあたり、
以前は、神社の上に玉滝という滝つぼがあったが、
明治22年の大水害で埋まってしまったという。
中島敦司(なかしまあつし)教授プロフィール
昭和38年、岐阜県生まれ。三重大
学大学院生物資源研究科博士後
期課程を修了。平成8年から和
歌山大学システム工学部講師、
12年から助教授。19年から教授。
専門は森林生態、自然再生、砂漠
緑化、海岸林再生、地域資源、地球温暖化、自然エネル
ギー、民俗(妖怪、伝承)。NPO活動にも力を入れる。熊
野方面には年間30〜50日は訪問し、研究する。

